



〔特集〕

技

今、注目の介護リフォーム

「街なかの礼拝堂を高齢者住宅へ」

● 必要不可欠の介護施設

全国に5,500以上(平成17年度)ある老人ホームは年々増え続けているものの、現状は需要に追いつけていない。満室のため「順番待ち」になることが頻発している。

訪問介護の仕事に携わってきた看護士の三箇さんは、このような状況の中高齢者の不安を感じとってきた。「入居を希望してもすぐに入居できるわけではありません。1人暮らしの方は特に心配していらっしゃいます。在宅の支援だけでは限界があると感じていました。」

「介護は、その家族に与える負担が



▲スロープがついた。



▲玄関先の段差



▲リフォーム後の通路。



▲リフォーム前の通路。床には絨毯が敷かれていた。



● 転ばぬ先の介護リフォーム

リフォーム前は、玄関先だけでなく部屋の出入り口などあちこちに段差があった。また、床には絨毯が敷かれ、扉の幅は狭く、車椅子での移動は不可能だった。そのため、まずは障害物を取り

除くことになった。

段差はスロープを取り付けることで解消し、車椅子での移動が可能になった。また、床は清掃しやすい長尺塩ビシートを使用した。また、予算の関係上、扉は既製品を設置することになったが、いろいろな業者へ問い合わせ、出来る限り幅の広いものを設置した。

クロスに関しては、汚れている部分のみの張替えを希望されたが、「同じ部屋で色が違うと違和感があります。全面を張り替えるようおすすめしました。」と担当者。スッキリとした内装になった。

その他、当初の計画では0.75坪の予定だったお風呂場は、入浴しやすいように出入り口を1つなくし、1坪へ広げた。制限のある中で試行錯誤していることがうかがえる。

● 家族的な雰囲気を大切に

集会場だった空間は間仕切りで分けられ、個室と食堂になっている。入居者全員が食堂で会食できるので、良い交流が図られている。全員がここで初めて顔を合わせるが、短い間でも心を通わせ、互いに助け合って生活している。

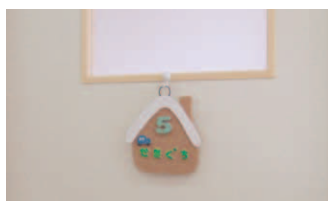
「7部屋しかない小さな施設ですが、その分皆さんとの交流を深めやすいのだと思います。ヘルパーさんと一緒にアットホームな雰囲気を維持していきます。」と三箇さん。今回のリフォームでは最低限必要な部分を改善したが、今後も入居者の要望などを取り入れながらリフォームを考えている。当施設はお年寄りにますます配慮した施設へレベルアップしていく。(技ネット)



▲お風呂場



▲リフォーム前の集会場。ピンク色の絨毯が敷き詰められていた。



▲ヘルパーさんが工夫を凝らした名札。▲リフォーム後の個室。掃除しやすく明るい床となった。



▲リフォーム前の個室。



今月のオーナー訪問



オーナー
三箇 千鶴子さん

「高齢者住宅さんが」

建物のことはよく分からないので、技のリフォームさんにお願いをしました。お互いに言いたいことを言い合えたと思います。部屋のクロスが張り替えられて、明るくなるとワクワクしてきました。費用が限られた中で、精一杯対応していただきありがとうございます。

「さんが」は、街なかであり、スーパーなどへの買い物ついでに気軽に寄っていただけます。家庭的な雰囲気をもちと良くして、魅力を高めていきたいと思っています。興味がありましたらお気軽に声をかけてください。

住所／黒部市三日市3866
(富山地方鉄道電鉄黒部駅から徒歩1分)
電話／0765651885
入居対象者／65歳以上の方



技のリフォーム

0120-183-304